



8月6日発表のオーストラリアの政策金利変更について

金融政策について

オーストラリア準備銀行(RBA:中央銀行)は8月6日の金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを0.25%引き下げ、年率2.5%にすることを決定しました。これは事前の市場予想通りでした。次の金融政策決定会合は9月3日の予定です。

利下げの理由

RBAは声明の中で、今回の利下げの理由として以下の点をあげています。

- ・最近の世界経済はスローダウン傾向にあり、商品価格は総じて下落し、インフレの兆候は見られないこと
- ・最近のオーストラリア経済は、過去数年に比べスローダウンの傾向にある。特に、鉱業分野への投資が減退し、景気回復に対し下支えが必要であること
- ・失業率が過去数年に比べ少し上昇傾向にあるが、労働コストの上昇は緩和され、インフレは中期のターゲットの範囲内で向こう1、2年推移すると予想され、利下げ余地があること

今後の見通し

豪ドルは、RBAが前回(5月7日)、追加利下げを実施して以来、水準調整を続けてきました。

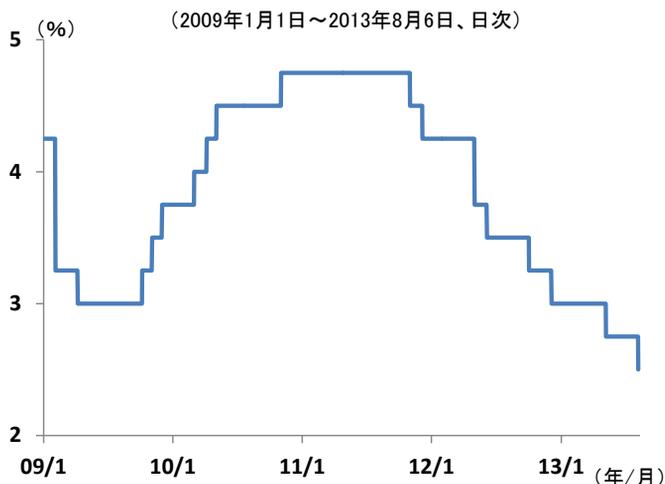
米国の量的緩和策第3弾(QE3)の縮小観測や中国経済の成長ペースの鈍化懸念などを反映し、豪ドルの売りが進む展開となりました。

一方、これまでの豪ドル安が輸出競争力の改善要因になっている可能性があることや、今回の再利下げが内需に対する下支えとなるものと思われます。

6月26日には、支持率が低迷していた与党・労働党が党首選を行い、ラッド前首相が新首相に就任しました。9月7日には総選挙が予定されていますが、市場はラッド新首相がどのような景気刺激策を打ち出してくるかに注目しています。

オーストラリア経済を取り巻く海外の経済環境はまだ不透明ですが、ファンダメンタルズ(経済の諸条件、経済の基礎的条件)は安定しており、金利水準も相対的に高く資源国通貨でもある豪ドルは、長期的には堅調に推移するものと見ています。金利については、さらなる再利下げの可能性もあり横ばいから低下、株式市場については、利下げの効果もあり、徐々に上昇してくるものと予想しています。

【図表1】 オーストラリア政策金利の推移



【図表2】 米ドル/円と豪ドル/円の推移

